

平成22年度学校評価のまとめ

学校評価の目的として、①開かれた学校づくり、②教育活動、内容の質の向上、③学校の活性化、④教職員の資質向上、のために実施しました。

アンケート調査は、生徒（各教科の授業・学校生活）、保護者、学校評議員、職員に実施後、分析を行い、学校改善の方向性を検討した。

1. 生徒の評価について

回答数は、1年生	117名（在籍122名）	95.9%
2年生	104名（在籍106名）	98.1%
3年生	101名（在籍105名）	96.2%
回答数	322名（在籍333名）	96.7%

2. 保護者による学校評価の回答数

1年生	回答数104名	85.2%
2年生	回答数70名	66.0%
3年生	回答数79名	75.2%
総回答数	253名	76.0%

3. 職員による評価 23名

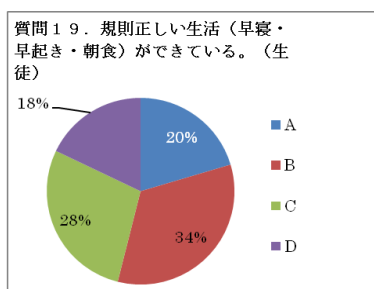
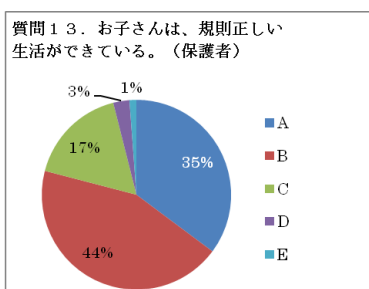
4. 学校評議員 5名

以上の1～4のアンケート等を総合分析し学校改善の指針とする。

A：よく当てはまる
B：やや当てはまる
C：あまり当てはまらない
D：当てはまらない
E：不明（判断できない）

評価でAとBについては、肯定的と考え、60%以上を良いと捉え、50%を切るものを課題ありと捉え分析していく。CとDについては否定的で改善が必要であると捉える。来年度、具体的に検討しすぐに対応・実践できるものと長期的に対応を検討していく必要があるものに分けながら指針をまとめていく。

1〔規則正しい生活について〕



【昨年度の課題】

生徒の健康観察など、学校側の努力を怠ることなく、指導していく必要がある。また、保護者に協力してもらうようにしていく必要がある。

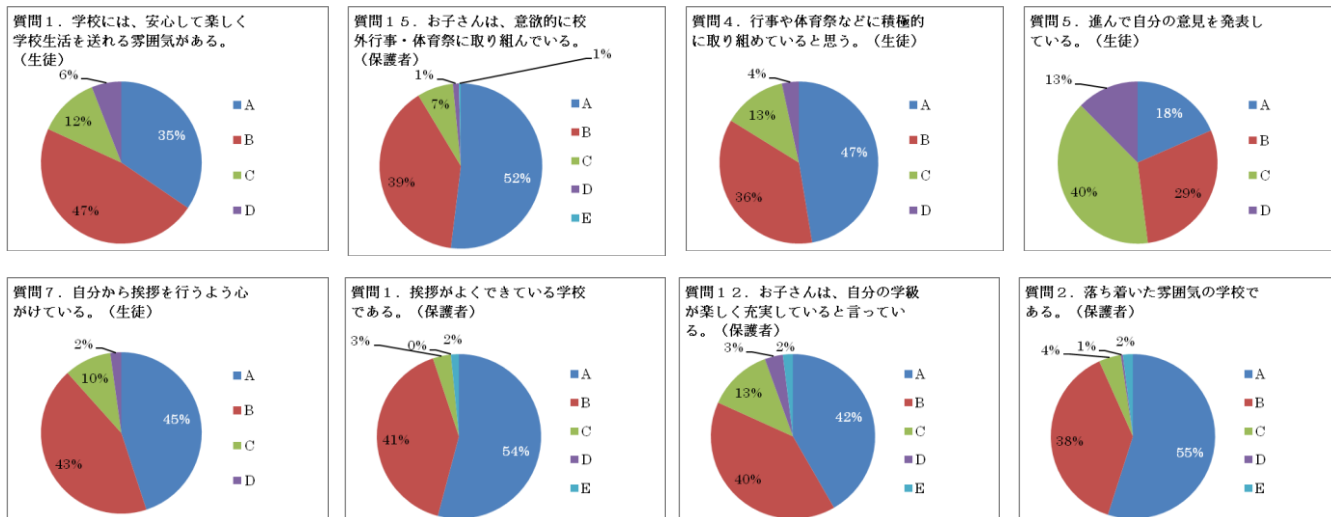
【全体的な講評】

多くの生徒は規則的な学校生活を送ることができているが、塾や習い事に通う生徒も多く、就寝時刻が遅くなっている生徒もいるようである。SHRや授業中の様子を観察し、必要に応じて保護者と連絡を取りながら、改善をしていく必要がある。

【改善の視点】

生徒の健康観察をよく行い、声かけをしていくようにする。また、SHR、授業、昼食など学校の様子で気になる面があれば、保護者に連絡し、協力してもらう必要がある。

2〔学校生活について〕



【昨年度の課題】

日常の指導の成果であり、これからも信頼される学校づくりを進めるよう継続指導が必要であると考えます。今後も、生徒と保護者への積極的なアプローチをしていくことにより、課題点の改善に努めていく必要がある。

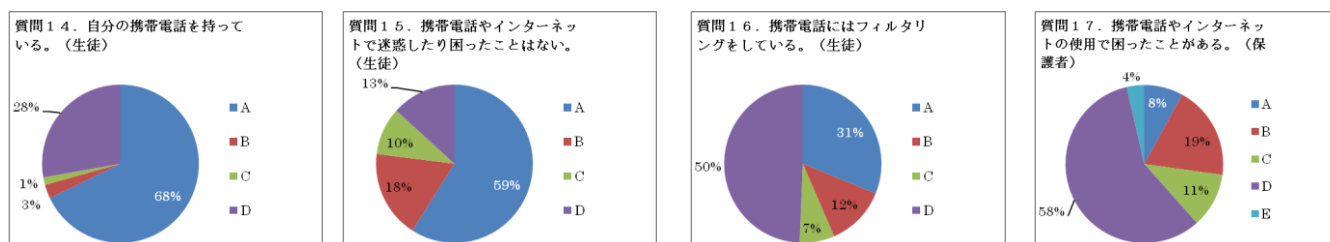
【全体的な講評】

- ・学校の雰囲気が良く、穏やかで落ち着いた学校生活が送れていると評価している保護者が多い。生徒では、A が 32% から 35% に上がり、保護者では 53% から 55% に上昇した。
- ・ほとんどの生徒は授業や行事に積極的に取り組み、仲間と協力して安心して楽しく学校生活を送っている状況である。保護者からも生徒たちは、きちんと挨拶ができ、礼儀正しく、行事や生徒会、部活動などに積極的に取り組んでおり、良い状況だと思ふという意見もあった。
- ・進んで自分の意見を発表している生徒や自分の悩みなど相談しやすい雰囲気があるという生徒の割合は低く上昇していない。

【改善の視点】

- ・保護者からの学校に対する評価は上昇しているが、今後も、信頼される学校づくりを進めていくためには、生徒や保護者とのコミュニケーションを丁寧に行っていくことが大切である。

3〔携帯電話、インターネットの使用について〕



【昨年度の課題】

ケータイ電話・インターネット上の非公式サイト(いわゆる「学校裏サイト」)を利用し、

特定の子どもに対する誹謗・中傷が集中的に行われたり、他人になりすましてケータイのメールを利用し特定の子どもに対する誹謗・中傷を不特定多数のケータイ電話に送りつけたりするなど、『ネットいじめ』と言う「新しい形のいじめ問題」が深刻化してきている。

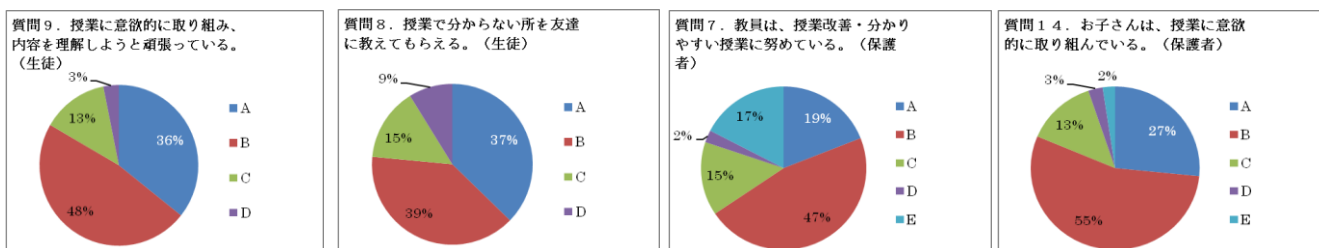
【全体的な講評】

フィルタリングの実施率は、昨年度と同じ、43%で保護者・地域(社会)での啓蒙活動が進んでいない状況を示しているように思われる。また、ケータイ・インターネットの「こまり感」は生徒の23%と保護者の27%の結果となっている。本当の実態は、どうなのか疑問が残る。生徒・保護者ともに深みにはまってからの相談事案があったことも忘れてはならない。保護者が安心・安全のためにケータイを持たせているが、そこから発生するリスクがあることも忘れてはならない。また、今後この端末が進化することがあっても、絶対になくなることはあり得ない。したがって、上手に安全にどの様に利用するかが大切である。私たちより生徒たちのケータイの知識が豊富であることも忘れてはならない。このためにも、一層の利用方法の「約束」を地域(社会・関係諸機関)から啓発していく必要性を強く感じる。

【改善の視点】

重要なことは、保護者会等でフィルタリング・利用方法の「約束」を啓発すると共に、身近な大人がケータイ・インターネットの利用の実態を十分に認識し、しっかりと教え込み、未然防止に努めることが大切である。また、関係諸機関等から各携帯電話事業所において事業に伴う社会責任を認識し、適切な対応と処置を講じていくように依頼することも大切である。

4〔授業について〕



【昨年度の課題】

- ・授業の質を高め、生徒の学習意欲を高める工夫をすることによって、生徒が主体的に学習できるシステムを確立する。
- ・授業でのつまずきへの対策として、学習会や家庭学習について検討し、実施していく。

【全体的な講評】

- ・授業は落ち着いて取り組めているが、生徒の意欲、保護者の意識ともに、教員の努力を求めている。授業時数への意識を全教員が持てるような流れを作り、教科面談や学習カードから生徒の声を拾い、より意欲的に学習できる授業にする努力が必要である。
- ・提出物については、各学年で意識を持って取り組めるようになってきている。学習会も習慣づいている学年もあるが、さらに家庭学習への意識を高める必要がある。

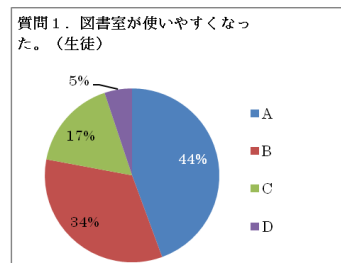
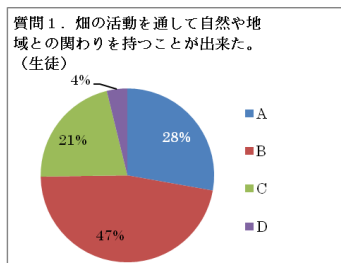
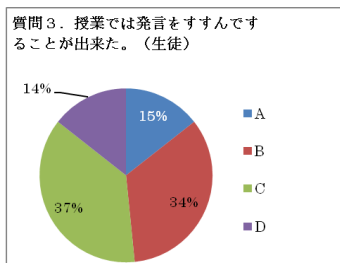
【改善の視点】

- ・1年生で行っているつまずき対策としての学習会や学級や教科担任による学習会は、学習習慣や意識づけに有効である。今後も生徒・教師に無理のないよう継続していけると良

い。

- ・新学習指導要領に向けて、各教科で授業内容のさらなる工夫改善ができるよう努力したい。
- ・家庭学習のあり方、つまずきへの支援のあり方を学校として検討して進めていけるよう努力する必要がある。

5〔道徳・総合・図書について〕



【昨年度の課題】

昨年度はアンケート調査を行っていない。

【全体的な講評】

〈道徳〉

他者の意見を聞くことができているという意見が多かったことは良かったが、反面、自ら進んで発言をすることができたと感じる生徒の割合が少なめであったので、改善していくようにする。

〈総合〉

多くの生徒は畑作業を楽しく行えたようである。今後、食物を育てる過程から生徒が積極的に関わることができるような取り組みになると尚良い。

〈図書〉

図書室の様式替え後、多くの生徒は図書室が使いやすくなったと感じている。

【改善の視点】

〈道徳〉

生徒の実態に応じ、考えさせ、発言したくなる発問や授業展開ができるよう工夫する。また、より多くの生徒が授業を通して自分の意見を他者に伝える機会を作るため、グループでの話し合いや発表活動を行うなどの工夫をする。

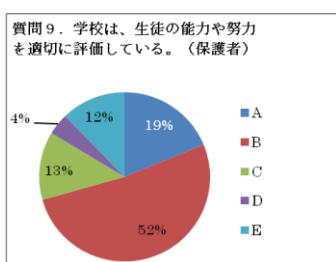
〈総合〉

ゲストティーチャー（進路学習などにおいても）の検討も含め、総合学習で学ばせる内容を効果的に行う手段を考えていく。

〈図書〉

アンケートをとるなど、生徒の読みたい本が揃うための工夫をしていく。

6〔評価について〕



【昨年度の課題】

- ・生徒にとってもわかりやすい評価計画や評価規準の説明
- ・観点別評価に沿った作問や配点の工夫

【全体的な講評】

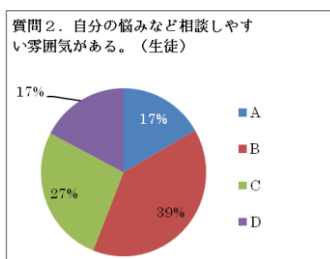
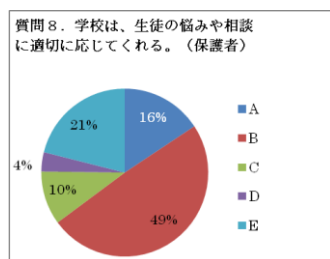
各教員は生徒の能力や努力を適切に評価する意識を持って評

価に臨んでいる。保護者の意識も前年度より上がってきており、また今年度増やした「評価の内容を説明している」というアンケート項目の結果からも、評価についての説明を文書や説明会を通して伝えてきたこととおおむね理解を得られていると判断できると思われる。また、定期試験の結果など評価について保護者に知らされる部分が限られている面もあるので、個々には評価について理解が不十分なこともある。今後も評価についての理解が深められるよう、日ごろから学習内容や課題と評価の関連性を生徒や保護者にしっかり示し、説明のできる評価を心がけていきたい。

【改善の視点】

- ・ 授業計画・評価計画をわかりやすく説明し、年間を通じて生徒が学習活動を振り返りながら評価への意識や認識を持てるようにする。
- ・ 試験問題作成にあたり、観点別評価の意図にあった作問を心がけ、難易度や配点の工夫をしていく。また、定期テスト以外の評価について保護者へも伝わる努力をする。

7〔相談活動について〕



【昨年度の課題】

昨年度の結果より、生徒が教職員に相談できる雰囲気を感じている。しかし、半数弱の生徒は「あまり感じていない」と回答している。生徒と関わる時間や声かけなどを行っていくことが必要であり、

日常の学校生活の会話から相談事を拾い上げられると考えた。

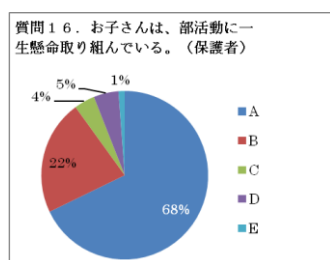
【全体的な講評】

昨年度とほとんど変わらない結果になっている。スクールカウンセラーや訪問相談員の役割が認知され、放課後の時間を活用しての相談が行われている結果だと考える。

【改善の視点】

休み明けや行事の最中から終了までの期間での声かけなど場面を狙った相談活動も意識して行う必要性を感じている。相談しやすさを表す数値が昨年度と全く変わらないことから、改善ということでは考えるとまだ活動の内容が不足していたと考える。よって、具体的に生徒と接する相談週間や面談等での具体的な事柄の拾い上げを行っていくことが必要であると考えます。

8〔部活動について〕



【昨年度の課題】

チャンピオンスポーツの技術指導にのめり込むのではなく、中学生としての望ましいアスリートを育てるためにも職員の研修と指導が大切である。

【全体的な講評】

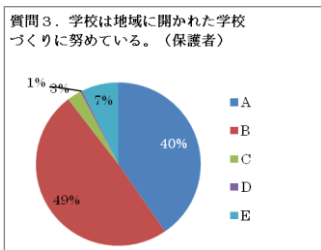
一昨年86%から昨年89%、今年度は90%と増加傾向にある。部活動の参加状況率の向上のために一斉に指導を実施し、参加率向上の改善が見られたが今後も継続指導が必要である。生徒たちが興味を一番に示す活動領域でもあることを考慮し、一層の指導の活性化を課したい。また、生活指導上大切な活動であるこ

とも忘れてはならない。

【改善の視点】

勝利主義に向かうのではなく、中学生の競技者のあるべき姿を育ていきたい。改善の視点とはならないが、保護者・生徒の中から新たな部活動(同好会)を望むことがあり、本校としての進むべき方向性を明確にしておく必要がある。

9〔開かれた学校づくりについて〕



【昨年度の課題】

おおむね良好であったが、保護者の参観日を土曜日にすることで今まで以上に学校の活動や PTA 活動の理解へとつながるだろうと考える。

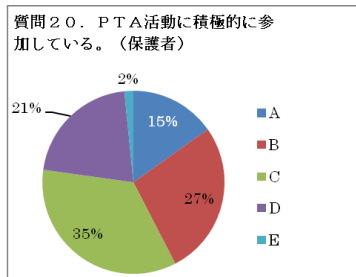
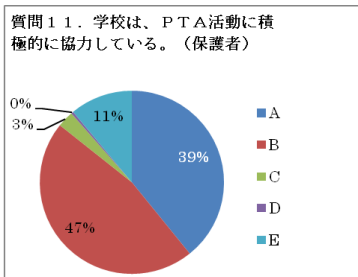
【全体的な講評】

9割の保護者が開かれていると考えているものの、昨年度より若干「そう思う」という結果が減少している。土曜日参観を実施することで、参観日の保護者の参加が多くなっているが、開かれた学校という観点ではつながっていなかったということになる。情報発信の手立てを考えていく必要性を感じる。

【改善の視点】

おおむね良好な状態と考えるがさらに向上させるための手立てとして、学校に興味を持ってもらえるような活動や説明会などから学校の活動の中身を知ってもらえるよう努力をする必要がある。

10〔PTA 活動について〕



【昨年度の課題】

参加できるときに参加して頂けるように、活動内容についてのお知らせを確実に伝わるようにする手立てや、「まちcomiメール」などを使った新たな伝達方法の工夫をしていく必

要がある。また、委員会の活動内容の効率化も、引き続き検討されるべきである。

【全体的な講評】

「まちcomiメール」などを使った新たな伝達方法が広まっている。仕事に就かれている保護者が多くなり、「PTA活動に積極的に参加できていない。」という方が増えているが、学校への関心は高く積極的にPTA活動や学校に協力してくれる保護者はいる。できるだけ参加しなければという気持ちを持っている方は多いと思われるので、参加しやすくしていく工夫が求められる。

【改善の視点】

土曜日の授業参観・懇談会やPTA活動の推進などを行ってきていることは、保護者に評価されていると思う。参加できるときに参加して頂けるように、活動内容についてのお知らせを確実に伝わるようにすることや委員会の活動内容の効率化も、引き続き検討される

べきである。

○保護者からの記述より

【昨年度の課題】

- ・誰にでも挨拶ができるよう指導を引き続き徹底させるとともに、学級経営・学級作りなどにおいて教師自身の教育力をつけていく。
- ・土曜参観日を設け、地域や保護者に対してより開かれた学校をめざす。
- ・配布物等が家庭に必ず届くよう取り組む。

【全体的な講評】

- ・学校全体が落ち着いていて、子どもを安心して通わせることができる環境である。また挨拶がよくでき規律が守れている生徒が多い。
- ・合唱コンクールや体育祭に対しても生徒が積極的に良く取り組んでいる。
- ・道徳教育の研究を通して、教師集団の教育力を高めることができた。この成果を普段の授業を含めた教育活動に生かしていきたい。
- ・怪我等の防止を含め、より生徒が安全に生活できる環境の構築に引き続き努める。
- ・合唱コンクールを含む土曜参観日を今年度2日増やしたことにより、多くの保護者や地域の方々の姿が見られた。(小学生・他校の先生方も含む)
- ・「まちcomiメール」を使い校外行事の様子などをリアルに知らせることができた。学校からの配布物についても可能な限りお知らせをするようにした。来年度も引き続き実施していきたい。

【改善の視点】

- ・落ち着いた雰囲気継続するためにも基本的な生活習慣をしっかり身につけさせるよう指導していく。
- ・生徒がより安心して生活できる環境の構築を図る。
- ・教師自身が今まで以上に研鑽を積み、わかりやすい授業の構築・生徒理解に努める。

○学校評議員の活動について

【昨年度の課題】

学校評議員会として、もっと授業見学や教員・生徒との懇談を通してさらに学校の現状を知ってもらいながら、ご意見をいただく必要がある。また、地域の声を代表して学校に届けてもらえればと考えている。「地域との繋がり」については、地域の方と生徒との話し合いの場をさらに多くすること、参加しやすい雰囲気を作っていく必要がある。

【全体的な講評】

昨年と同様に教育目標、教科指導、生徒指導、行事、教育活動、広報、地域の7項目に20問の回答をもらった。評議員会を授業参観の日に実施したこと、行事に参加してもらったことで直接生徒の活動を見ていただいて評価していただいた。

意見として、生徒は落ち着いた学校生活をしており、自然に挨拶ができ定着してきている点についてよい評価だった。また、土曜日に体育祭・合唱コンクール・授業参観を実施

したことについて、保護者の参加も多く、家族連れも多く和やかでよいという意見があった。教職員については、比較的よい評価だったが、授業等については多くの先生達のアドバイスを受けながら、さらに研鑽を積み自信を持って行っていく必要があるとの指摘があった。地域の安全についても、外灯の整備等しっかり管理していく必要がある。

【改善の視点】

アンケートの結果は、ほとんどがAとBの評価で良好といえる。引き続き、平日に評議員会を開く、土曜日に授業参観や行事を行うなどして学校を直接見ていただく機会を増やしていく必要がある。授業については、工夫改善をさらに進めより良くすることが求められている。学校の周りの安全点検にも心掛けることにより、地域の安全にも配慮していく必要がある。

○教職員の自己評価

【昨年度の課題】

指導するにあたって、共通理解をしっかりと図りながら進めるとともに、途中経過についても連絡し合い生徒理解を深めながら最善な指導を展開していく必要がある。教職員の様々な色の声の一つの方向に向かっていることが大切である。学校運営への参画意識を持ちながら、また職員会議を研修の場面と考えながら活性化させていく必要がある。

【全体的な講評】

質問9（会議の結果を生かし、どの教員も同じように指導に当たっている）と質問13（職員同士のコミュニケーションがとれている）の2つに課題があると考え。この2つについては、職員会議等の内容が連絡事項になってしまっていること、問題意識を持って参加していない状況があるのではないかと分析する。意見として、道徳の研究を進めたように具体的な目標を作りながらひとつの方向に向かっていくように取り組んでいくことが重要であると考え。また、職員間のコミュニケーションが大切なので、さらに共通理解を図りながら指導に当たっていく必要がある。

生徒については、授業や行事を通して考えさせて行動できるような場面を作りながら主体的に動ける生徒を育成していく必要がある。

【改善の視点】

職員会議等を研修の場とらえ何が大切かを分かりやすく具体的に行動しやすい内容にしながら会議を進めていく必要があると考え。共通理解を図る上でもコミュニケーションをとることが重要なので打合せ等をできるだけ時間割の中に入れながら進めることができると考える。新指導要領の全面実施が24年度になるので、意識しながら授業改善を行っていくことが大切である。